

## 農業機械士等研修を行いました

規模拡大の推進のため農業機械の大型化・高性能化が進んでいることから、経済性を考えながら効率良く、安全に使う事が求められています。愛知県では農業機械を経済的・効率的に使用し安全に作業できる方を「農業機械士」に、さらに高度な専門知識を有する方を「指導農業機械士」に認定しています。



平成25年2月13日(水)から14日(木)に本校において農業機械士等研修を実施し、農業機械士・指導農業機械士を目指す34名(うち8名が農大生)が受講しました。県庁農業経営課職員と本校研修部職員が講師を勤め、農業機械の構造・機能と取扱い、点検と簡易な修理、効率利用、作業安全、導入利用計画、機械と資材の管理といった座学に加え、トラクタの作業点検、ロータリの着脱といった実習を行いました。受講者は大型農業機械の取扱経験のある方ばかりですが、この研修で「基礎から勉強することが大事だ」という気付きがあったようです。

2月15日(金)には「農業機械士」「指導農業機械士」になるための農業機械利用技能検定試験が行われ、試験の結果、新たに30名の「農業機械士」が誕生し、受講者に3月中旬に通知されました。

## 新たな担い手を育成 新規就農者向けの研修を実施しています

農業大学校では、新たに農業を始めたい方を対象とした3つの研修を実施しています。

一つ目は、若手のUターン就農者や経営方針がある程度定まっている新規参入者向けの「ニューファーマーズ研修」です。平成24年度は12名の受講者が180時間以上のほる講義と900時間以上を目標とした実習を終え、修了証を授与しました。受講生の経歴も様々で、新しい発想や視点で営農を考えております。既に、人・農地マスタープランに位置付けられた方もあり、今後の地域農業の担い手やリーダーとなる人材として期待されている様子が伺われました。

二つ目は農業法人等への就職や新たに農業経営の開始を目指す方を対象とした離職者向けの「雇用創出農業研修」です。この研修は、岡崎高等技術専門校が行う職業訓練で、農業大学校で実施しています。平成24年度は5月16日に開講し、160日間に及ぶカリキュラムを実施しました。受講した30名のうち、就農に結びついた方は19名で、自ら所有する農地で露地野菜や果樹、花きを主体に栽培し、農

## 大村知事が来校

4月18日(木)、大村知事の来校がありました。鈴木校長から本校の実践教育の特徴、卒業後の進路先や高い就業率など説明を受けた後、トマト栽培温室、巨峰ハウスでの実習状況を視察し、「ブドウの木はどのくらいの年数で更新するのか」などの質問をしては、学生のしつかりした受け答えに満足した様子でした。

また、老朽化が進む学生寮にも足を運び、二人部屋の舎室内部や食堂などの説明に熱心に聞き入っていました。



知事と果樹専攻学生

業を始めた方8名、新規参入者として農地を確保し、これから経営を始めた方8名、さらに技術を磨くために研修を続ける方3名でした。

3つ目は、平成24年度からの新規事業で始まった「農業者育成支援研修」です。経営内容が決まっていない非農家出身の就農希望者や年配の就農希望者等、農業を初歩から学びたい方向けの研修です。露地野菜作の実習と10回の講義を行います。研修は隔日(週3日)のため、自己ほ場等での農作業も可能です。農地の有無は問いません。

受講者は16名で、多くは定年後に兼業農家を継いで就農する意欲を持っています。11名が就農しました。受講者からは「理論を知らずに見よう見まねでやってきたが、この研修で学んだ方法で近所でも評判になる素晴らしいナスが出来た」とか、「耕耘機の仕組みが分かり、効率的な作業ができるようになった」など、研修で学んだ成果や感想を聞くことができました。

新たに皆様の仲間入りされるこれらの研修修了生に対して、応援をお願いします。